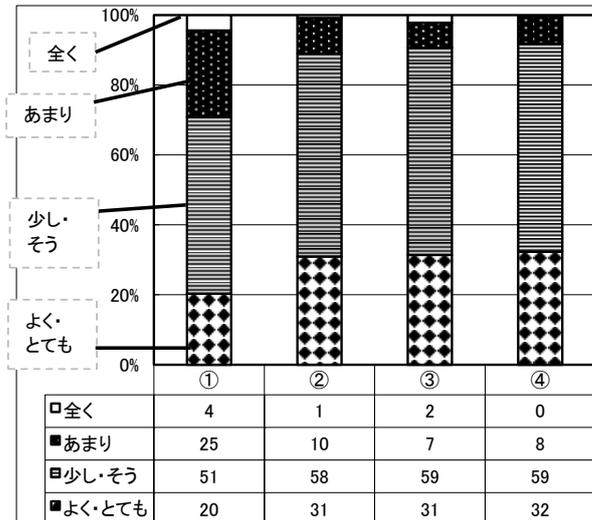


丸小を見つめて（保護者評価） 平成30年度

回収率：85%

○確かな学力

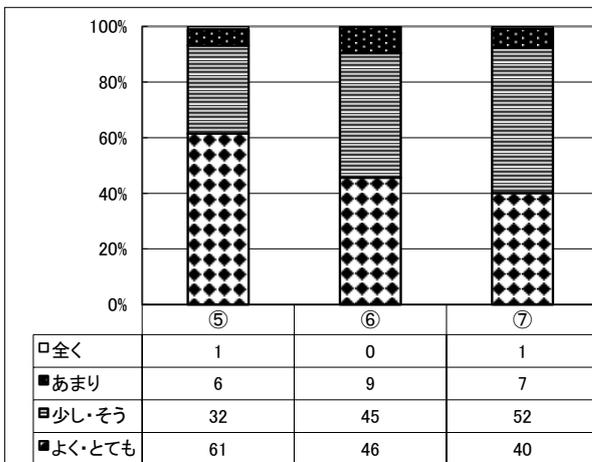


- ① 子どもは、自ら進んで学習課題を見つけ、自分の力で解決しようとしている。
- ② 子どもは、友達の話の聞いたり、自分の思ったことや考えたことを伝えたりしながら、学習に取り組んでいる。
- ③ 子どもは、発達段階に応じた系統的な学びで基礎的な学力を身につけている。
- ④ 学校は、子どもたちの学びが計画的に積み重ねられていくように、職員が一体となって取り組んでいる。

（考察）

②～④の項目に関しては、3割以上が高評価となっていることから、児童の学習への構えは、おおむね良好ととらえられる。しかし、①の項目は、3割近くが「全く」「あまり」と答え、学習意欲や問題解決学習に課題を抱えているととらえている。今後も、児童が自ら学習課題を見つけ、進んで解決に向けて取り組めるような指導の工夫を行っていく。また、学校として、基礎的な学力を身に付ける取組や進んで学習に取り組めるような指導の工夫を行う必要がある。

○豊かな心

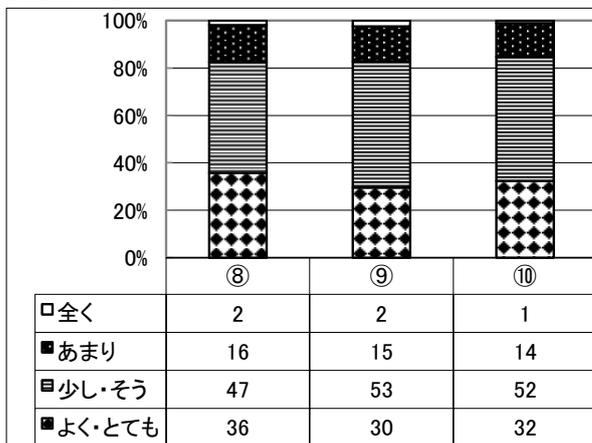


- ⑤ 子どもは、毎日楽しく登校している。
- ⑥ 子どもは、お互いに助け合い、協力し合って学習や活動をしている。
- ⑦ 学校は、子どもの学年や状況に応じて、道徳の学習を進め、人権を尊重する精神を育もうとしている。

（考察）

どの項目も昨年同様高評価となっている。特に⑥については、若干ではあるが昨年より良い評価となっている。丸小フェスタや運動会などの学校行事や、オープンスクール後の保護者評価と重なっていることがうかがえる。また、⑤については、今年度も登校に不安を感じている児童がいるため、安心して過ごせる学級づくりを目指すと共に、一人一人に寄り添った支援が一層必要になると考える。

○健やかな体

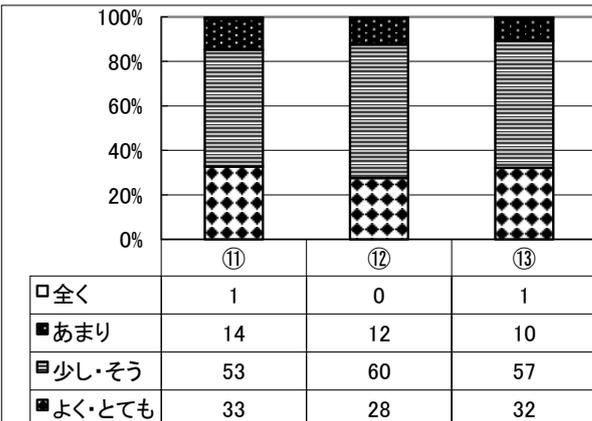


- ⑧ 子どもは、体育の授業で学習カードを用いて学習したり、外で遊んだりして、自ら進んで運動しようとしている。
- ⑨ 子どもは、くすのき週間、歯みがき週間、学校保健委員会等の活動に参加することにより、健康的な生活をしようとしている。
- ⑩ 子どもは、給食時間や給食週間の食育指導、「『食』の学び」の学習により、栄養のバランスを考えながら食事をしようとしている。

（考察）

どの項目も「よく・とても」「すこし・そう」が8割を超えている。特に⑩は昨年よりも高評価になっている。今後も子どもたちの「健やかな体」づくりが体育、保健、食育を通してより効果的に実践できるように取り組んでいきたい。

○児童指導

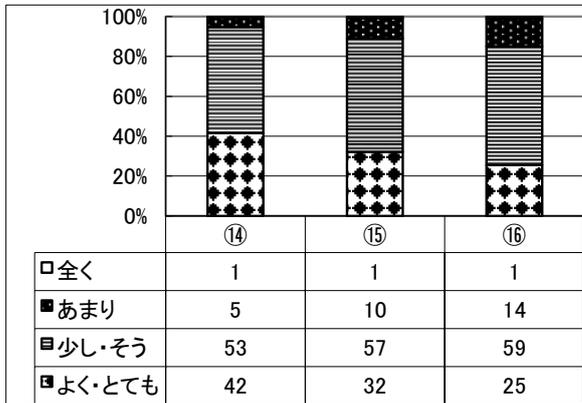


- ⑪ 子どもは、元気よく場に応じた挨拶をしている。
- ⑫ 学校は、生活や学習などの相談がある場合に、早期発見・早期解決のための対応がなされている。
- ⑬ 学校は、3か月毎にステップアップカードで学習や生活を振り返ることで、子どもが自分を見つめて次の目標を設定してよりよい生活につなげられるようにしている。

（考察）

昨年度同様、どの項目も「よく・とても」「少し・そう」が9割近い。本校ではステップアップカードを継続して取り組んでいること、個人面談で活用していることが⑬の結果に繋がっていると考えられる。また、どの項目も「よく・とても」「少し・そう」「あまり」「まったく」の割合も大きな変化はなく、「少し・そう」が半数以上を占めている。現状に満足するのではなく、そこをどのように「よく・とても」に変えていくかが課題となる。そのために、今後も地域、家庭と連携しながら挨拶への取組などを継続していく。

○特別支援教育



⑭ 学校では、備品・掲示物等を整理し、教室の学習環境を整え子どもの育ちに役立てている。

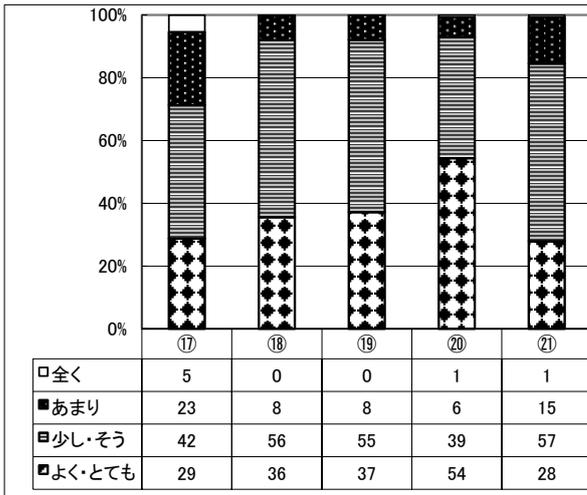
⑮ 学校は、だれもが安心して学校生活を送れるように個に応じた支援をしている。

⑯ 学校は、子どもたちの様々なケースに対して、チームで対応して解決している。

(考察)

⑭、⑮は昨年度と比較して、大きな変化はない。「少し・そう」「よく・とても」が9割近くになっており、一定の評価を得ている。また、「よく・とても」のみに着目すると、昨年度よりも少しではあるが増えている。⑯は「よく・とても」が減り、「あまり」の回答が増えている。今後は、特別支援コーディネーターを中心に、様々なケースに対応できる支援の形を考え充実させていく。また、誰もが安心して学校生活を送れるように、今後もより一層個に応じた支援を心がけていく必要がある。

○地域連携



⑰ 子どもは、地域の行事（夏祭りやチルドレンサークル、自治会の行事など）に参加している。

⑱ 学校は、保護者や地域の方々と関わりをもって、「開かれた学校運営」になるように取り組んでいる。

⑲ 学校は、子どもたちの安全を守るために、地域や保護者との連携を深めている。

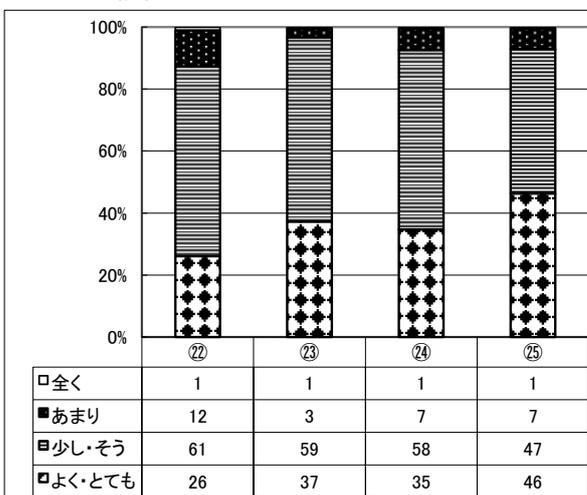
⑳ 学校は、メール配信等緊急時の連絡システムを確立し、整備を進めている。

㉑ 学校は、情報発信を密にし、家庭・地域からの意見を集約し反映している。

(考察)

⑱～㉑については、昨年に引き続き「よく・とても」「少し・そう」が約9割を超えている。しかし、⑰の項目については、「よく・とても」「少し・そう」が7割程度にとどまっている。学校は、授業の一環で地域との関わりを多くもっている。その学びが家庭や地域に浸透していくことができるよう、さらに家庭に働きかけを工夫し、「ふるさと丸山台を愛する」児童の育成に取り組んでいきたい。

○キャリア教育



㉒ 子どもは、様々なキャリアをもつ人々から学んで、知識理解を深めている。

㉓ 学校は、学年の発達に応じた「『食』の学び」を通して、健やかな体と豊かな心を育てている。

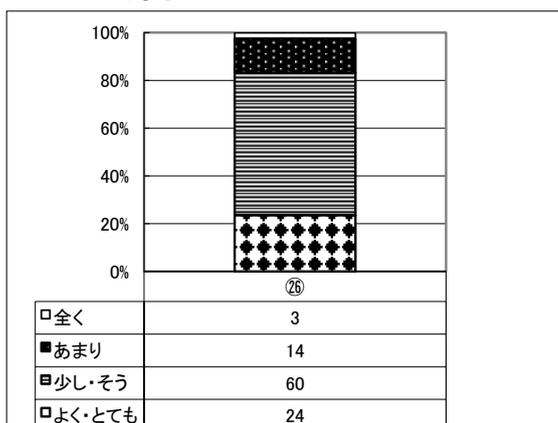
㉔ 学校は、地域や様々な人との交流を通して、自分たちが住むまちの良さや伝統を感じている。

㉕ 子どもは、異学年交流（たてわり活動、幼保小連携、小中連携など）を通して、異学年の子どもたちと進んでコミュニケーションをとろうとしている。

(考察)

㉒、㉓、㉔は、昨年同様「よく・とても」「少し・そう」が8割を超えている。㉕の異学年交流については、毎年、高評価になっているので、引き続き児童が進んで他学年の子どもたちとも進んでコミュニケーションをとれるような活動を今後も大切にしていきたい。

○いじめへの対応



学校は、いじめ基本方針に則り、定期的にアンケート（学校生活について 年2回、いじめについて 年2回）を実施するなどして、いじめの早期発見・早期対応に努めている。

(考察)

昨年度同様、「よく・とても」「少し・そう」が8割を超えている。今後もいじめの早期発見・解決のために、アンケートからの実態把握と合わせて、日常の児童の様子を丁寧に見たり、保護者からの情報に迅速に対応したりする努力が必要である。引き続き、「いじめゼロ」をめざして教職員一丸となって取り組んでいく。